

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 9日現在

機関番号：64303

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720336

研究課題名（和文）資源利用と管理に着目したスワヒリ海村の環境・生活影響評価と多民族共存の比較研究

研究課題名（英文）Comparative Study on Environmental/Lifestyle Assessment and Multi-ethnic Coexistence in Swahili Maritime Society focusing on Resource Use and Management

研究代表者

中村 亮（NAKAMURA RYO）

総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：40508868

研究成果の概要（和文）：歴史的に多民族が混住する東アフリカ・スワヒリ海岸のキルワ島とマフィア島（タンザニア）、ラム島とパテ島（ケニア）において、民族に応じた沿岸資源の利用と管理について比較研究した。その結果、いずれの海村においても、波風が穏やかで魚影の濃いマングローブ内海が居住空間・生業空間として重要であった。主要調査地のキルワ島では、マングローブ内海ではバントゥ漁師による採集中心漁撈、外海では主にアラブ系漁師によって刺し網中心漁撈という民族に応じた生業空間と漁獲対象の棲み分けがあった。しかし、2004年ごろから始まった環境保護政策によって、マングローブ内海での漁撈活動が制限され、漁具を没収されたバントゥ系住民は生活困窮に陥った。バントゥ系住民とアラブ系住民の経済格差の拡大は、文化的経済的にキルワ島社会の構造に変化をもたらした。文化的変化は、邪術の横行と対抗邪術としての精霊憑依儀礼の復活である。経済的变化は、家計を助けるためにバントゥ系女性が積極的に経済活動に参加し始めたことと、若者の漁撈離れ観光業嗜好である。環境保護政策にともなう伝統的な資源利用の変化が、現地の生活に、文化的経済的に与える影響について具体的に解明することができた。

研究成果の概要（英文）：This study analyzed the exploitation and sharing of coastal resources by according to ethnic groups in Swahili maritime society: Kilwa and Mafia in Tanzania and Lamu and Pate in Kenya. As the result, the inland seas covered with mangroves were important for residence and occupational spaces in each island. The ethnic groups on Kilwa Island are easily categorized into two types of fisheries. Gathering fishery on the mangrove inland sea was found to be practiced by Bantu fishers, whereas net fishing on the open sea was conducted primarily by fishers of Arab descent who possessed expensive large boats. Each ethnic group has been able to monopolize its own fisheries. This has contributed to the maintenance of harmonious multi-ethnic coexistence on the island. However, from around 2004, maritime resource use on Kilwa Island has changed due to coastal development. The fishing activities of Bantu fishermen, who generally fish on the mangrove inland sea, have been restricted due to new conservation policies for mangrove environments. Bantu fishermen who lost their fishing equipment and livelihood were forced into poverty. As a result, the economic gap between the two ethnic groups widened, and fear for the security of daily life has spread within Kilwa society. Bantu women on the island have started to more actively participate in economic activities, including starting fried fish businesses, to help family budgets. Since 2005, sorcery cases were increasing, and shamanism as an anti-sorcery ritual has burgeoned in Kilwa coastal

societies. This study clarified how the changing of traditional resource use caused by the environmental conservation policy gives influences on cultural and economical structures in this region.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：資源利用・管理、多民族共存、スワヒリ海村、比較研究、環境・生活影響評価、文化人類学、タンザニア、ケニア、キルワ島／ラム島

1. 研究開始当初の背景

紀元前よりのインド洋交易をつうじて多民族が混住してきた東アフリカ・スワヒリ海村社会では、限られた資源と居住空間のもとで歴史的に達成されてきた多民族共存という問題が重要である。これまでのスワヒリ海村研究は、歴史学、考古学、言語学、精霊憑依に関する研究、自然科学の分野において充実してきた。

スワヒリ海村社会の文化人類学研究の空白を埋めるために申請者は、タンザニア南部の旧海洋イスラーム王国キルワ島を研究拠点として2000年より研究をおこなってきた。そして、キルワ島は28民族混住という驚くべき多民族社会であり、そこではバントゥ系民族とアラブ系民族が、居住空間、生業空間、資源利用の三つの棲み分けにより階層化する方法で、多民族の共存を達成していることを解明した（中村2008『旧海洋イスラーム王国キルワ島にみるスワヒリ海村の構造』博士学位論文）。

キルワ島での研究成果をスワヒリ海村社会全体に発展させるために、申請者は2008年に笹川研究助成、2008～2009年に若手研究スタートアップの研究助成を得て、「歴

史・自然環境分析」をもちいたスワヒリ海村社会の基礎的な比較研究を開始した。「歴史・自然環境分析」とは比較対象とする社会や文化の違いを歴史自然環境の差異の分析にもとづいて説明する方法である（嶋田義仁2007「経済発展の歴史自然環境分析」『アフリカ研究』70: 77-88.）。

キルワ島の事例を基礎として、特に、マフィア島、ラム島、パテ島で現地調査をおこなった。そこより、近年、沿岸開発や観光化による社会変化の著しいスワヒリ海村の多民族共存を解明するためには、漁撈活動、林業、運搬業などによる海資源の「利用」に加え、環境保護政策による資源の「管理」という新たな分析視角による、環境・生活影響評価が必要であると判断したことにより本研究計画の着想に至った。

マフィア島にはマフィア島海洋公園、ラム・パテ島にはキウंगा国立海洋保護区が設置されており、人びとは海洋公園の中で生活している。そこでは現地の伝統的な資源管理とは別に、政府主導の海資源管理がおこなわれている。また、2009年9月におこなったキルワ島での現地調査で、近いうちにキルワ沿岸部においても海洋公園を設

置する計画があることが明らかになった。ここでも現地の伝統的な資源利用と、政府による資源管理の問題が浮上してきた。

キルワ島の住民は、漁撈制限をとまなう海洋公園計画に反対である。しかし、キルワ沿岸地域の七割ほどが設置に賛成している状況のなかで、近い将来計画が実施される可能性は高い。マフィア島海洋公園にならってキルワ島の海洋公園にも資源利用禁止区域や緩衝地域などが設定されると予想されるが、これがどの海域に設定されるかが現地住民にとっては大問題である。

キルワ島のマングローブとサンゴ礁は、政府の保護・管理対象であると同時に、現地住民が伝統的に漁場として利用してきた生業空間でもある。キルワ島の多民族共存は生業空間と資源利用を民族間で棲み分けることによって達成されていた（バントウ系漁師はマングローブ内海とサンゴ礁での漁、アラブ系漁師は外海漁）。その民族間の棲み分けのバランスをくずさないような、キルワ島の人間と自然とのかかわり、すなわち生態的基礎を考慮したうえでの資源管理や海洋公園計画が求められるのである。

2. 研究の目的

本研究では、海洋公園をもつキルワ島、マフィア島、ラム島、パテ島の四海村を研究拠点として比較研究し、スワヒリ海村社会の多民族共存メカニズムを解明することを大きな目的とする。そのためにまず次の二点について明らかにする。

- (1) 生態的基礎図の作成：衛星写真に基づく詳細な地形図と現地調査による四海村の生態的基礎の解明。
- (2) 生態的基礎図をもとにした環境・生活影響評価：民族間の資源利用と生業空間の棲み分けを示し、そこに海洋公園による政府の資源管理がどのように影響しているのか/するのかを解明する。

以上を明らかにしたうえで、これまでのスワヒリ海村の多民族共存メカニズムが、近年の急激な社会変化にどのように対応で

きるのか/できないのかについて、資源利用と管理の側面から考察する。

3. 研究の方法

現地調査を毎年度おこない、その経過と成果を、学会発表、論文、ウェブサイトなどをつうじて公開してゆく。研究成果の発表は日本語、英語、スワヒリ語の多言語でおこなう。国内外の学会誌への投稿とともに、タンザニア (COSTECH)、ケニア (NCST) の政府機関へも提出する。同時に、スワヒリ語をもちいて現地住民と研究成果を共有することで、フィードバックを得ながら研究計画を発展させてゆく。

以下の研究計画・方法と研究体制のもと、「スワヒリ海村社会の多民族共存メカニズムの解明」と研究成果の現地還元による「住民生活の保障と向上」を目指す。

- ・研究体制：アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究（基盤S）、アラブなりわいプロジェクト（地球研）、衛星データ、HP作成の専門家、現地・海外調査協力者からの研究支援を得ながら本研究にのぞむ。
- ・研究対象地域：キルワ島、マフィア島、ラム島、パテ島の四スワヒリ海村、および各地の海洋公園の実態調査をおこなう。
- ・研究方法：「歴史・自然環境分析」による四海村の比較研究、生態的基礎の作図。
- ・研究課題：生態的基礎図の作成、政府による海資源管理と伝統的な民族間の資源利用と生業空間の棲み分け、沿岸部の環境・生活影響評価。

四スワヒリ海村での比較研究をおこなうが、その際、申請者が2000年より研究してきたキルワ島での研究成果を基礎にすることで、他地域での現地調査の効率化を図る。また「歴史・自然環境分析」をもちいて、四海村での研究結果を整理・統合することにより、スワヒリ海村社会の全体像を典型的に把握することができる。

申請者は職務として地球研の「アラブなりわいプロジェクト」、科研基盤S研究分担者として「アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明

研究」に関わっている。いずれのプロジェクトにおいても、アラブ紅海沿岸地域の海村研究を担っている。研究対象地域は異なるが、同じ海村社会研究としてこれらのプロジェクトに関わることで国内外の多くの研究者、現地活動家などと意見交換することが与える本研究への学術的意義は大きい。また、海外調査協力者である Pascal Baez 博士（言語人類学、イエメン・サナー大学）、John Kiango 博士（言語社会学、タンザニア・ダルエスサラム大学）からは、論文のスワヒリ語訳などにおいて研究支援を受ける。

4. 研究成果

歴史的に多民族が混住するタンザニアのキルワ島とマフィア島、ケニアのラム島とパテ島においては、限られた沿岸資源を多民族間でどのように利用するかが問題である。各海村において民族に応じた沿岸資源の利用と管理について現地調査を実施した。

その結果、いずれの海村においても、波風が穏やかで魚影の濃いマングローブ内海が居住空間・生業空間として重要であった。かつてのスワヒリ交易都市の多くがマングローブ内海に立地していることより、マングローブ内海がスワヒリ交易都市成立の自然環境的条件であったと推測可能である。

主要調査地のキルワ島の 28 民族は大きくバントゥ系とアラブ系に分かれる。マングローブ内海ではバントゥ漁師による採集中心漁撈が、外海では主にアラブ系漁師によって竜骨構造船を用いて刺し網中心漁撈がおこなわれている。民族に応じた生業空間と漁獲対象の棲み分けによって、漁撈における多民族の平和的な資源利用が達成されてきた。

しかし、キルワ地域で 2004 年頃から始まった環境保護政策によって、マングローブ内海での漁撈活動が制限されることとなった。漁具を没収されたバントゥ系住民は生活困難に陥り、漁撈制限を受けなかったアラブ系住民との経済格差が広がった。経済格差の拡大による社会不安は、文化的経済的にキルワ島社会の構造に変化をもたらした。

文化的変化は、邪術の横行と対抗邪術としての精霊憑依儀礼の復活である。2008 年に 3 人の新たな精霊呪医が誕生し、盛んに精霊憑依儀礼がおこなわれるようになった。

経済的変化は、家計を助けるためにバントゥ系女性が積極的に経済活動に参加し始めたことである。女性はグループを作り、揚げ魚を近隣の町へ運んで売る商売を開始した。

また、生業として漁撈よりも観光業を選択する若者も増えた。キルワ島の王国時代の石造建造物はユネスコ世界文化遺産に指定されている。キルワ島の若者が中心となり、観光客の遺跡訪問のガイドが組織された。

社会構造や伝統的な資源利用を理解することなく開始された環境保護政策は、キルワ沿岸地域に社会混乱を招いたが、文化的経済的構造を変化させることによって、人びとはその変化に対応している。環境保護政策にとまらぬ現地の伝統的な資源利用の変化が、文化的経済的に大きな影響を与えることが、キルワ島の事例より解明された。

5. 主な発表論文

〔雑誌論文〕（計 13 件）

- ① NAKAMURA, Ryo 2013/3 “Maritime Anthropology on Fishery in Jizan and Farasan Islands, Southern Part of the Red Sea in the Kingdom of Saudi Arabia”, H. Nawata (ed.), *A Study of Human Impacts on Mangrove Habitats along the Northern and Southern Parts of the Red Sea Coast in the Kingdom of Saudi Arabia (2011-2013)*, pp. 1-22.
- ② NAKAMURA, Ryo 2013/3 “Utumiaji wa mikoko katika Kilwa Kisiwani, kusini mwa mwambao wa kiswahili, Tanzania” [in Swahili]. Y. Shimada (ed.), *African Religious Dynamics*, Vol. 1, pp. 111-125.
- ③ 中村亮 2013/2 「スワヒリ海村キルワ島の漁撈文化：バントゥ起源の内海漁撈とアラブ起源の外海漁撈」嶋田義仁編『イスラーム圏アフリカ論集』Vol. 5, pp. 135-162.
- ④ 中村亮 2012/12 「メンバーによる研究紹介

- 中村亮』『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』2: 179-186. (査読付)
- ⑤ NAKAMURA, Ryo and Adel Mohamed Saleh 2012/8 “Maritime Anthropology along the Red Sea in Sudan: Fishing Culture in Dungonab and Boat Culture in Suakin”, H. Nawata (ed.), *Investigative Report: A Study of Human Subsistence Ecosystems in Arab Societies (2011-2013)*, pp. 73-86.
- ⑥ NAKAMURA, Ryo 2012/3 “Maritime Environments of Swahili Civilizations: The Mangrove Inland Sea of Kilwa Island, Tanzania”, *Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations* 1: 81-89. (査読付).
- ⑦ NAKAMURA, Ryo 2012 *Mangrove Inland Sea and Swahili Civilizations: A Case Study on Kilwa Island, Southern Swahili Coast, Tanzania*. *Progress report on previous research for COSTECH, 10 pp.
- ⑧ 中村亮 2011/11 「風と潮にいきるひとびと：スワヒリ海岸キルワ島の魚柵漁」『BIOSTORY』16: 68-69.
- ⑨ NAKAMURA, Ryo 2011/4 “Multi-ethnic Coexistence in Kilwa Island, Tanzania: The Basic Ecology and Fishing Cultures of a Swahili Maritime Society”, *SHIMA: The International Journal of Research into Island Cultures* 5(1): 44-68. (査読付).
- ⑩ NAKAMURA, Ryo 2010/8 “Anthropological Study on the Ababda Maritime Society in the Southern Parts of the Red Sea coast in Egypt”, H. Nawata (ed.), *Investigative Report August 2010: Study of Human Impacts on Mangrove Habitats in Egypt (2009-2013)*, pp. 12-21.
- ⑪ NAKAMURA, Ryo 2010/7 “Direct and Environmental Uses of Mangrove Resources on Kilwa Island, Southern Swahili Coast, Tanzania” 『日本中東学会年報』26(1): 215-240. (査読付)
- ⑫ 中村亮 2010/4 「男子割礼にともなう唄の文化：タンザニア南部の島社会と伝統」ニューズレター『地球研ニュース』(25): 9.
- ⑬ NAKAMURA, Ryo 2010 *Socio-Cultural Structure in Swahili Maritime Society: From the Case of Kilwa Island, Southern Swahili Coast, Tanzania*. *Progress report on previous research for COSTECH, 25 pp.

〔学会発表〕(計10件)

- ① NAKAMURA, Ryo “Multi-ethnic Coexistence in a Swahili Maritime Society as seen through Basic Ecology and Fishing Cultures of Kilwa Island, Tanzania”, *Workshop on Afro-Eurasian Dry Lands in the Central Eurasian Studies Society 2012 Annual Conference*, 2012/10/17-18, Indiana University, USA.
- ② NAKAMURA, Ryo “Multi-ethnic Coexistence in a Swahili Maritime Society: Basic Ecology and Fishing Culture on Kilwa Island, Tanzania”, *AA Science Platform Program: The 4th International Symposium, 50th Anniversary of Africa Nation State as Renaissance*, 2011/10/8-10, Nagoya University, Aichi, Japan.
- ③ 中村亮 「スワヒリ海岸キルワ島のジニ(精霊)信仰」日本アフリカ学会第48回学術大会, 2011/5/20-22, 弘前大学.
- ④ 中村亮 「インド洋西海域の船の文化」第一回 紅海社会研究会, 2011/5/15, 東京外国語大学本郷サテライト会議室.
- ⑤ 中村亮 「スワヒリ海村社会の多民族共存：タンザニア・キルワ島の生態的基礎と漁撈文化」中部人類学談話会第203回例会, 2011/1/29, 椋山女学院.
- ⑥ NAKAMURA, Ryo “Boat Culture in the Western Indian Ocean”, *JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research(S): Historico-Ecological Studies of Afro-Eurasian Inner Dry Land*

Civilizations, 2nd International Symposium: Saharan Civilization, 2010/12/22-24, Nagoya University, Aichi, Japan.

- ⑦ NAKAMURA, Ryo “The Dryland Fishing Culture of the Ababda Maritime Society along the Red Sea Coast of Southern Egypt”, *RIHN Satellite Symposium for IAS International Conference 2010 at Kyoto, Keystone Species of Human Subsistence Ecosystems in Arab Societies*, 2010/12/20-21, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, Japan.
- ⑧ NAKAMURA, Ryo “The Bantu and Arab Cultures on Kilwa Island as seen through *Jini*”, *AA Science Platform Program: Religious Dynamics of Contemporary Africa Concerning the destruction of Traditional Life Mode and New Religious Movement, The 2nd International Symposium: 50th Anniversary of Africa Nation States as Renaissance*, 2010/12/13-15, Nagoya University, Aichi, Japan.
- ⑨ 中村亮 「インド洋西海域世界のマングローブ海村文化の比較：タンザニア、ケニア、そしてエジプト」第16回日本マングローブ学会大会，2010/11/6-7，東京農業大学。
- ⑩ 中村亮 「スワヒリ海岸南部タンザニア・キルワ島におけるマングローブ資源の直接利用と環境利用」日本中東学会第26回年次大会，2010/5/8-9，中央大学。

〔図書〕(計4件、分担執筆)

- ① NAKAMURA, Ryo 2013 “Mangrove Use on the Kilwa Island, Southern Swahili Coast in Tanzania”, H. Nawata (ed.), *Dryland Mangroves: Frontier Research and Conservation*, Arab Subsistence Monograph Series, Volume 2. Shoukadoh Book Sellers, Kamigyo-ku, Kyoto, pp.

38-41. [in English and Arabic]

- ② NAKAMURA, Ryo 2013 “Utumiaji wa Mikoko katika Kilwa Kisiwani, Kusini mwa Mwambao wa Kiswahili, Tanzania”, H. Nawata · S. Ishiyama · R. Nakamura, *Exploitation and Conservation of Middle East Tree Resources in the Oil Era*, Arab Subsistence Monograph Series, Volume 1. Shoukadoh Book Sellers, Kamigyo-ku, Kyoto, pp.103-132. [in Swahili, English, and Arabic]
- ③ NAKAMURA, Ryo 2011 “Seafood Preservation and Economic Strategy of the Dried Fish Trade in Kilwa Kisiwani, Southern Swahili Coast, Tanzania”, S. Maghimbi, I. N. Kimambo, and K. Sugimura (eds.), *Comparative Perspectives on Moral Economy: Africa and Southeast Asia*, Dar es Salaam University Press, Dar es Salaam, Tanzania, pp. 273-291.
- ④ 中村亮 2011 「スワヒリ海村社会のジニ信仰：キルワ島の場合」嶋田義仁編『シャーマニズムの諸相』アジア遊学141、勉誠出版、千代田区神田神保町、pp. 168-192.

〔その他〕

ホームページ等

スタッフプロフィール（日本語）

<http://archives.chikyu.ac.jp/archives/AnnualReport/Viewer.do?prkbn=R&jekbn=J&id=248>

スタッフプロフィール（英語）

<http://archives.chikyu.ac.jp/archives/AnnualReport/Viewer.do?prkbn=R&jekbn=E&id=248>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 亮 (NAKAMURA RYO)

総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：40508868